

令和七年度入学試験問題（文学部）

現代の国語
現言論古文
代語理學典
の文国国探
国語化語語
究

(注意事項)

- 一、問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 二、問題冊子は十六ページ、解答紙は四枚あります。「始め」の合図があつたらそれぞれを確認すること。
- 三、各解答紙の二箇所に受験番号を記入すること。
- 四、受験番号は、裏面の記入例にならつて、マス目の中に丁寧に記入すること。
- 五、解答はすべて解答紙の指定欄に記入すること。

受験番号の記入例

A B D E G H I K L M P S T W Z

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

古文論言現代
典学理語の
探国国文
究語語化語

— 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(45点)

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

(尹雄大『聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき』による。ただし、問題作成の上から本文の一部を改めた。)

問1 傍線部A「そうですね!」と「そうですか?」のあいだを縫うようにした「そうですか!」で応えるようにしている」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問2 傍線部B「どちらも私が引つかかるところは音のズレにおいて共通している」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問3 傍線部C「あなたは「そのように言うこと」によって何が手に入ると思っているのでしょうか」とあるが、筆者はなぜそのような質問をするのか、説明しなさい。

問4 傍線部D「それを手に入れることで失ってしまうものがあるとしたら、それは为什么呢」とあるが、筆者はなぜそのような質問をするのか、説明しなさい。

問5 傍線部E「ここである繊細さは、互いに言語に依存したゲームを繰り返すためのものではない」とあるが、それはどのようなことか、説明しなさい。

問6 傍線部F「完全に聞く」とは相手を完璧に理解することではない。わかろうと試みる状態のことだ」とあるが、それはどのようなことか、本文の論旨を踏まえて説明しなさい。

二 次の文章は、阿仏尼『うたたね』の一節である。作者は恋仲であつた相手と疎遠になり、とうとう尼寺で出家をしたが、その相手のことを忘れられずにいた。これを読んで、後の問いに答えよ。(30点)

そのころ心地例ならぬことありて、命もあやふきほどなるを、ここながらともかくもなりなばわづらはしかるべければ、思ひかけぬたよりにて、愛宕の近き所にて、はかなきやどり求め出でて、うつろひなんとす。かくとだに聞こえさせまほしけれど、問はず語りもあやしくて、泣く泣く門を引き出づるをりしも、先に立ちたる車あり。前はなやかに追ひて、御前などことごとしく見ゆるを、誰ばかりにかと目とどめたりければ、かの人知れずうらみ聞こゆる人なりけり。顔しるき隨身など、まがふべうもあらねば、かくとは思し寄らざらめど、そぞろに車の中はづかしくはしたなき心地しながら、今ひとたびそれとばかりも見送り聞こゆるは、いとうれしくもあはれにも、さまざま胸静かならず。つひにこなたかなたへ行きわかれ給ふほど、いといたう願みがちに心細し。

かの所に行き着きたれば、かねて聞きつるよりも、あやしくはかなげなる所のさまなれば、いかにして耐へしのぶべくもあらず。暮れ果つる空のけしきも、日ごろに越えて心細く悲し。宵居すべき友もなければ、あやしく敷きも定めぬ十符の菅菰に、ただ一人うちふしたれど、とけてしも寝られず。

C はかなしな短き夜半の草枕結ぶともなきうたたねの夢

日ごろ経れど、訪ひ来る人もなく心細きままに、経つと手に持ちたるばかりぞ、たのもしき友なりける。「世皆不牢固」とあるところをしひて思ひつづけてぞ、うき世の夢もおのづから思ひさますたよりなりける。今日か明日かと心細き命ながら、卯月にもなりぬ。

(注) ○愛宕……現在の京都市東山区あたりの地名。

○御前……貴人の通行を先導する者。

○宵居すべき友……夜ふかしをして語り合える友人。

○十符の菖菰……編み目が十筋ある、菖で編まれた敷物。

○「世皆不牢固」……『法華経』の一節。この世に、かたくてしつかりしているものは何もないという意。

問1 傍線部①～③について、文脈に即してそれぞれ現代語訳せよ。

問2 二重傍線部「ざらめ」について、例にならって文法的に説明せよ。

例 四段活用動詞「なる」の連用形＋過去の助動詞「き」の已然形

問3 傍線部A「かくとだに聞こえさせまほしけれど」について、「かく」の指す内容を現代語で答えよ。

問4 傍線部B「さまざま胸静かならず」とあるが、作者がこのような状況になったのはなぜか、本文に即して説明せよ。

問5 傍線部C「はかなしな短き夜半の草枕結ぶともなきうたたねの夢」とあるが、

1 この歌の句切れとして正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

(ア) 初句切れ (イ) 二句切れ (ウ) 三句切れ (エ) 四句切れ (オ) 句切れなし

2 この歌は、作者の居場所がどのようなものであることをふまえて詠まれているか、説明せよ。

問6 傍線部D「経つと手に持ちたる」とあるが、このような行動をする作者の思いを説明せよ。

問7 『うたたね』と成立時期が最も近い作品を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

(ア) 更級日記 (イ) 十訓抄 (ウ) 大鏡 (エ) 落窪物語 (オ) 太平記

三 次の文章は、木下長嘯子『九州の道の記』（一五九二年）の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。（30点）

さのみ舟のうち、波の上も堪へがたくて、赤間が関に上がりにつけり。ある寺に、先帝の御形並びに一門の公卿、殿上人、局、内侍以下まで、はかなき筆の跡にのみ写し置きたり。世隔たりたることと思へど、その時の心憂さ、沈み給ひしありさままで、数々に思ひ出でられて悲しく覚えければ、

所せく袖ぞ濡れけるこの海の昔をかけし波の名残に

① それより陸路を、駒の足にまかせて急ぎけるほどに、豊前国菊の高浜に泊り侍りしに、海近き所なれば、折節風すさまじう、よもすがら打ちも臥されず侍りしかば、

B 夢にだに都のつてはさもあらで波の音のみ菊の高浜

並びの国筑前箱崎の松原、聞きしより見るはなほ景気ことなり。かの社頭は西面、海辺に向かはせ給ふ。戒定慧の箱埋まれ、しるしに植ゑられけむ松、神さび申すも愚かにぞ侍る。愚詠一首つづけまほしく覚え侍りしかど、所のありさまにけおされ、
C 本意なくやみにけり。

それよりほど近き博多といふ所に、四、五日ありけるうちに、「袖の濤とことごとくいはれたるはいづくぞ、尋ね見ばや」と申しければ、主心ある人にて導しけるに、主のいはく、「今こそ潮のさし来て水も少し侍れ。常は無下にいふかひなく候ふものを」とぞ申しける。まことに唐土舟寄せつべき浦とも覚えぬ。

また、「菅原の大臣住み給ひし宰府といふ所や近く候ふ」と問ひ侍りければ、「これより三里あまりやあるらむ」と申す。「さらばよきほどなり。拝み奉らむ」と詣でて、こなたかなた名所ども見歩きしに、業平の、「色になるてふ」と詠みし染川も、そのかたなく、水さへかれはてて、昔の跡といふばかりなり。

思ひ川、これも聞きしばかりにはあらねど、見所多かり。かの伊勢が、「思ひ川」と詠みたりしも、水無くあせなば口惜しかるべきを、絶えず流るるこそ、人の言葉のまことあらはれて、優には侍れ。

一日、二日ありて、名護屋にまかりけるに、道すがらの名所ども、尋ね問はせければ、「これぞ生の松原とは申す」と言ふ。さることあり。大宰帥隆家、筑紫に下りける時、扇賜はせ給ふとて、枇杷太后宮、「涼しさは生の松原」と詠みし所にぞあなるが、まことに歌人は行かずして名所を知ると諺にいへるがごとく、松原の景気、海に近くさし上がり高き所なれば、涼しかるべき境地なり。

(注) ○赤間が関……山口県下関市の旧称。

○先帝……安徳天皇(一一七八〜八五)のこと。

○一門……平家一門。

○かの社頭……福岡市東区にある筥崎宮のこと。

○戒定慧……仏教の実践の三大綱要である「戒律」「禪定」「智慧」。

○袖の湊……博多港の古名。

○唐土舟寄せつべき浦……「思ほえず袖に湊のさわぐかな唐土舟の寄りしばかりに」(伊勢物語・二十六段)をふまえる。

○菅原の大臣……菅原道真(八四五〜九〇三)のこと。

○宰府……福岡県太宰府市にあった西海道の総管府。

○「色になるてふ」……「染河を渡らむ人のいかでかは色になるてふことのなからむ」(伊勢物語・六十一段)。

○「思ひ川」……「思ひ川たえず流るる水の泡のうたかた人にあはで消えめや」(後撰和歌集)。

○大宰帥隆家……藤原隆家(九七九〜一〇四四)。道隆の四男。長和三(一〇一四)年に大宰権帥。

○枇杷太后宮……枇杷皇太后宮(九九四〜一〇二七)。藤原妍子。道長の二女。

○「涼しさは生の松原」……「涼しさは生の松原まさるともそふる扇の風な忘れそ」(新古今和歌集)。

○境地……場所。

問 1 傍線部①・②について、文脈に即してそれぞれ現代語訳せよ。

問 2 傍線部A「この海の昔」とあるが、その具体的な内容について、本文をふまえて説明せよ。

問 3 傍線部Bの和歌について、

1 この歌で用いられている和歌の表現技法について説明せよ。

2 歌全体を現代語訳せよ。

問 4 傍線部C「本意なくやみにけり」とあるが、なぜそのような状況になったのか、説明せよ。

問 5 二重傍線部「染川」「思ひ川」について、作者はどのような評価を下しているか、本文に即して説明せよ。

問 6 傍線部D「歌人は行かずして名所を知る」とあるが、ここではどのような内容を指しているのか、説明せよ。

四

次の【文章Ⅰ】は歴史書『三国志』、【文章Ⅱ】はそれに付された注（異聞録）である。二つの文章を読んで、後の問いに答えよ。
なお、この文章には設問の都合で返り点・送り仮名を省略した部分がある。（45点）

【文章Ⅰ】

劉備東伐^ニ呉^ヲ、呉王求^メ和^ヲ、瑾与^フ備箋^ヲ。時或言^フ、「瑾別遣^ニ親人^ヲ与^レ備相聞[。]」権曰^ク、「孤与^ニ子瑜^ニ有^リ死生不易^①之誓[。]」子瑜之不負^レ孤、猶^ニ

孤之不負^ニ子瑜^ニ也[。]」

【文章Ⅱ】

『江表伝』曰^ク、瑾之在^ニ南郡^ニ、人有^リ密讒^{カニそしル}瑾者[。]此語頗流^ニ聞於外^ニ。権報曰^ク、「子瑜与^レ孤從^ニ事積年[。]」恩如^ニ骨肉[。]深相明究^ス。其^②為人非^{ザレバ}道不行^ハ、非^{ザレバ}義不言^ハ。玄德昔遣^ム孔明^{ヲシテ}至^ラ呉[。]孤嘗語^{リテ}子瑜^ニ曰^ク、『卿^{なんぢ}

与^ニ孔明^一同^{ナリ}産^{ナリ}、且^ツ弟^フ随^ハ兄^ニ、於^レ義^ニ為^リ順[。]何^ラ以^テ不^レ留^ニ孔明^一。孔明^⑥若^マ留^{マリテ}
 従^ハ卿^ニ者[、]孤^③当^ニ以^テ書^一解^レ玄^ニ德[、]意^{おもフニ}自^ラ随^フ人^ニ耳^ト。』子瑜^{ヘテ}答^レ孤^ニ言^フ、『弟^ニ亮[、]
 以^テ失^ヒ身^ヲ於^ニ人[、]委^{ゆだね}質^ヲ定^メ分^ヲ、義^ニ無^シ二^一心[。]弟^ノ之^ハ不^レ留^{マラ}、猶^ニ瑾^ノ之^ハ不^レ往^カ也^ト。』
 其^ノ言^ヲ足^リ貫^{クニ}神^ヲ明[、]今^ニ豈^ニ当^ニ有^ル此^乎。孤^{ケンヤ}与^ニ子瑜^一、可^シ謂^フ神^ト交^ト。非^ニ外^ニ言[、]
 所^ニ間^{スル}也^ト。』

（『三国志』および注による）

(注)

劉備 〓 後漢末、三国時代の人物。四川の地に蜀を建国した。

吳 〓 国名、三国の一つ。

吳王 〓 吳の王、孫權。

瑾 〓 孫權の臣下、諸葛瑾。

箋 〓 手紙。

孤 〓 わたし。

子瑜 〓 諸葛瑾の字。

『江表伝』 〓 書名。

南郡 〓 地名。

明究 〓 理解する。

玄德 〓 劉備の字。

孔明 〓 劉備の臣下、諸葛亮の字。

同産 〓 兄弟。

委質 〓 札物を捧げ、仕官する。

定分 〓 主と臣下の身分を定める。

神明 〓 天と地の間に存在する神。

神交 〓 心からの交わり。

問 1 傍線部①「子瑜之不負孤、猶孤之不負子瑜也。」について、

(1) 書き下し文に改めよ(現代仮名づかいでもよい)。

(2) 孫権はどのようなうわさに対してこのような事を述べたのか説明せよ。

問 2 傍線部②「何以不留孔明。」について、孫権はなぜ諸葛瑾ならば孔明を呉に引き留められると考えているのか、本文に即して答えよ。

問 3 傍線部③「孤当以書解玄德」は、「孤当に書を以て玄德を解くべし」と読む。この書き下し文に従って、解答欄の白文に返り点を記せ。

問 4 傍線部④「其言足貫神明、今豈当有此乎。」を、「其」と「此」が指すものを明らかにして現代語訳せよ。

問 5 傍線部⑤「非外言所聞也。」について、孫権がこのように言うのは、諸葛瑾をどのような人物と考えているためか、わかりやすく六十字以内で述べよ。

問 6 波線部a「不易」、b「為人」、c「若」の読み方を、送り仮名も含めてすべてひらがなで記せ(現代仮名づかいでもよい)。

問 7 後漢・三国時代に活躍した人物を、次の(ア)～(ク)の中からすべて選び、その記号を記せ。

- | | | | |
|--------|---------|--------|----------|
| (ア) 蘇軾 | (イ) 曹植 | (ウ) 班固 | (エ) 屈原 |
| (オ) 王維 | (カ) 司馬光 | (キ) 阮籍 | (ク) 昭明太子 |

